

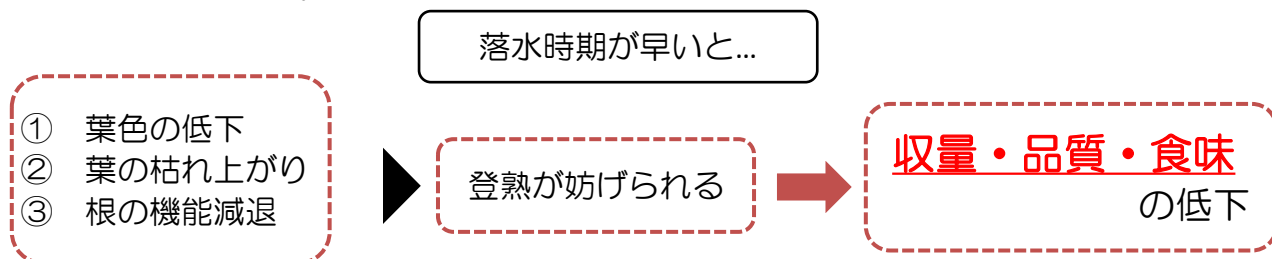


🌱 営農支援情報

適期刈り取りで高品質・良食味米生産を！

1. 刈り取りまでの水管理

これまで高温対策の水管理で土壌は湿潤な条件にあったことから、稲の根が急激な乾燥に対応できない可能性があります。出穂後30日までは間断かん水により、土壌水分を保持しながら稲体の活力を維持し、登熟の向上に努めて下さい。



2. 刈り取り適期の判定

刈り取り適期は、品種・圃場条件・栽培条件等で異なるため、以下の判定方法を組み合わせ、総合的に判断します。ここ10年ほどで“**高温障害**”という言葉が定着するほど、出穂期～登熟期の気温が高くなっています。胴割れ米の発生による品質低下を防ぐため、高温が続く中で刈り遅れのないよう注意して下さい。

① 出穂後の日数、積算気温からの判定

品種ごとの積算温度・出穂後日数による成熟期の判断（秋田県農林水産部「稲作指導指針」より）

品種		積算気温（℃）	出穂後日数
早生	あきたこまちR	950～1050	45日前後
中生	ひとめぼれ	1050～1150	50日前後
	めんこいな		
	ゆめおぼこ		
晩生	サキホコレ	1050	50日前後
	つぶぞろい	1050～1150	

刈り取り適期（成熟期）は
積算気温＝**日平均気温**の
積算で、**出穂期**の翌日から
積算する。

■ 青米割合 → 早生品種：950℃、中生品種：1,050℃を超えると10%以下となる

■ 胴割れ米・茶米 → 早生品種：1,100℃

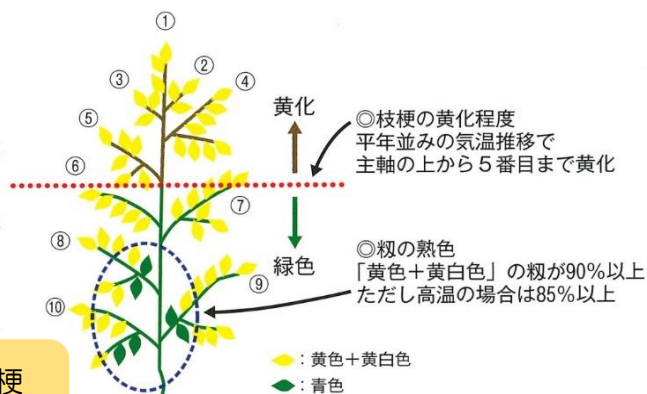
中晩生品種：1,200℃を超えると増加し、特に**高温年には胴割れ率が高い**

*出穂とは：止葉の葉鞘から穂の先端または一部分（^{のぎ}芒は含まない）が現れることで、圃場全体の**40～50%**が出穂した日を“**出穂期**”という。

② 刈り取り時期は総合的に判断する

出穂から収穫適期までの積算気温は、「あきたこまちR」で**950～1050℃**の間になります。

昨年から今年のような高温年は積算気温の目安より籾と枝梗の黄化が早まるので、適期を逸しないように注意して下さい。（低温年の場合は、登熟期間の日照時間も加味して総合的に判断します）



黄化程度：枝梗の黄化程度は主軸の上から5番目の枝梗まで黄化した頃、籾の黄化は90%程度が適期となる。

3. 倒伏した場合の対応

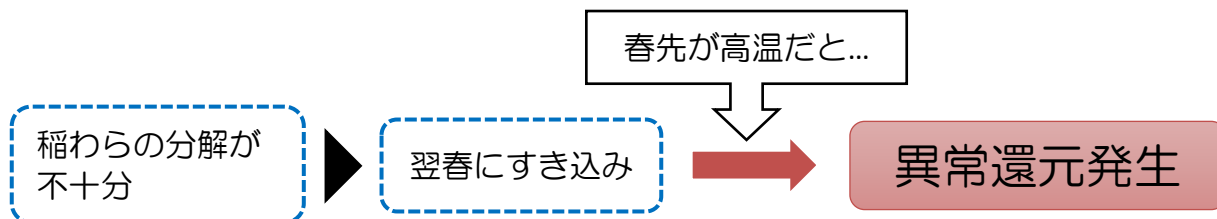
今年は前年同様、平年に比べ草丈が長く、稈長も長いため、**倒伏リスクが高い**と予想されています。倒伏してしまうと受光体勢が著しく悪化し、登熟の低下による減収と穂発芽による品質低下を招きます。

【倒伏した場合の対応】

- ① 圃場に停滞水が確認される場合は、**速やかに排水**する。
- ② 早期に倒伏した場合→可能な限り**速やかに4株ずつ束ねて**立て直し、穂を乾燥させる。
- ③ 登熟後期に倒伏した場合→早めに刈り取るとともに、**追い刈りや横刈り等による刈り取り精度の向上**に努める。
- ④ 穂発芽した場合→**刈り分け**を行い、品質低下の防止に努める。

4. 来年の異常還元発生を防ぐため、秋起こしを行いましょう！

前述のとおり、今年も平年より草丈が長く、稲わら残渣が多くなることが想定されます。



異常還元が発生すると、**稲の分けつ抑制や根腐れ**など、生育に影響が出てしまいます。

来年の異常還元発生防止のため、**稲わらの腐熟を促進**することが重要ですので、

稲刈り後の秋耕※をオススメします！

※圃場条件によっては、秋耕により、春先の作業に影響が出る場合がありますので、圃場ごとに実施の可否を確認して下さい。



JA全農あきた公式
ホームページはコチラ！

公式インスタ
秋田の農業応援団！

営農支援部 営農支援課 ☎018-880-1011



美人を育てる
秋田米です 🌾



Zennoh-akita agriculture+reform
Za・あぐりふおーむ

JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第67号 令和7年9月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒011-0901秋田市寺内字大小路207-24 018-880-1011